学校番号	104

令和８年度　数学科

教科	数学	科目	数学Ⅰ	単位数	３単位	年次	１年次
使用教科書	数学Ⅰ（数研出版）						
副教材等	教科書傍用 サクシード　数学Ⅰ＋Ａ（数研出版） チャート式　解法と演習　数学Ⅰ＋Ａ（数研出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

・授業は基本的には教科書に沿って進めていきます。先生の説明をただ聞いているのではなく、自ら考え、主体的に学習をしてください。また、高校の数学は学習内容の量が多く、授業のペースも飛躍的に速くなります。その中で、学習効果を高めるためには、日々の授業を大切にし、学んだことをしっかり復習することが重要です。授業の中で「分かった」と思っていても、それを家庭でしっかり演習を重ねないと「自分で解ける」ようにはなりません。日頃からもし分からない事や、質問などがあれば、放って置かず、昼休みや放課後等の時間を利用し、その日のうちに必ず解決していくようにしましょう。
・問題を解くときは、まず自分で考えてみてください。その際、途中式や考え方も書くようにしましょう。わからないときは解説を見ても構いませんが、しっかり読んで理解するように努めてください。答えの丸写しは自分の力にならないので絶対にしないようにしましょう。

2　学習の到達目標

(1) 数と式，集合と命題，２次関数，図形と計量，データの分析の考えについての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解し，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。
(2) 事象において、数と式，集合と命題，２次関数，図形と計量，データの分析の考えを用いて，数学的に考察する力，問題解決の過程や結果を振り返って統合的・発展的に考察したりする力を養う。
(3) 事象の考察に，数と式，集合と命題，２次関数，図形と計量，データの分析等を主体的に活用する態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	数と式，図形と計量，2 次関数及びデータの分析についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに，事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現・処理したりする技能を身に付ける。	命題の条件や結論に着目し，数や式を多面的にみたり目的に応じて適切に変形したりする力，図形の構成要素間の関係に着目し，図形の性質や計量について論理的に考察し表現する力，関数関係に着目し，事象を的確に表現してその特徴を表，式，グラフを相互に関連付けて考察する力，社会の事象などから設定した問題について，データの散らばりや変量間の関係などに着目し，適切な手法を選択して分析を行い，問題を解決したり，解決の過程や結果を批判的に考察し判断したりする力を養う。	数学のよさを認識し数学を活用しようとする態度，粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度，問題解決の過程を振り返って考察を深めたり，評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	第1章　数と式	第１節 式の計算 １　多項式 ２　多項式の加法・減法および乗法 ３　因数分解 発展　3次式の展開と因数分解	a: 乗法公式、因数分解の公式の意味や複雑な式が簡単に帰着できることを理解するとともに、式を目的に応じて変形することができる。 b: 学習した計算方法と関連付けて、式を多面的に考察することができる。 c: 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
		第２節 実数 ４　実数 ５　根号を含む式の計算 発展　対称式と基本対称式 発展　２重根号	a :数を実数まで拡張することの意義や実数が数直線上の点と１対１に対応していることを理解するとともに、簡単な無理数の計算ができる。 b: 学習した計算方法と関連付けて、式を多面的に考察することができる。 c: 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
		第３節　１次不等式 ６　1次不等式 ７　1次不等式の利用 研究　絶対値と場合分け	a: 一次不等式の解を求めることができる。 b: 不等式の理解を深め，式を多面的に捉えて問題を考察することができる。 c: 日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、一次不等式を問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート

	第2章　集合と命題	1　集合 2　命題と条件 3　命題と証明 発展　命題「すべてのxについてp」「あるxについてp」	a：集合と命題に関する基本的な概念、原理・法則などを理解し、知識を身に付けている。 b：ベン図などを用いて集合の考えを論理的に考察し、簡単な命題の証明について考察することができる。 c：日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題解決に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
	第3章　2次関数	第1節　2次関数とグラフ 1　関数とグラフ 2　2次関数とグラフ 研究　グラフの移動 3　2次関数の最大と最小 研究　定義域の両端が動く場合の最大 4　2次関数の決定	a：二次関数の値の変化やグラフの特徴について理解しており、平行移動を利用して二次関数のグラフを描くことができる。 b：関数の最大値，最小値やそれをとるときのxの値が何によって定まるのか理解し，考察することができる。 c：二次関数とそのグラフの性質や特徴について関心をもち、それらを二次関数の考察に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
2学期		第2節　2次方程式と2次不等式 5　2次方程式 6　グラフと2次方程式 発展　放物線と直線の共有点 7　グラフと2次不等式 研究　絶対値を含む関数のグラフ	a：二次関数のグラフと関数の値の変化における基本的な概念を理解し、最大値や最小値、二次方程式・二次不等式の解を求めることができる。 b：日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり考察したりすることができる。 c：二次関数とそのグラフを用いることの有用性を認識し、値の変化や二次方程式・二次不等式の考察に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート

	第4章　図形と計量	第1節　三角比 1　三角比 2　三角比の相互関係 3　三角比の拡張	a: 鋭角の三角比の意味と相互関係を理解し、他の三角比の値や鈍角の三角比の値を求めることができる。 b: 図形の構成要素間の関係を三角比を用いて表現するとともに、三角比の性質や相互関係を考察することができる。 c: 三角比を用いて直接測ることのできない長さや角度が求められることに関心をもち、事象の考察に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
		第２節 三角形への応用 4　正弦定理 5　余弦定理 6　正弦定理と余弦定理の応用 発展 三角形の面積 7　三角形の面積 発展 ヘロンの公式 8　空間図形への応用	a: 正弦定理、余弦定理を理解し、それを用いて平面図形や空間図形の計量をすることができる。 b: 図形の構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、問題を解決したり、考察したりすることができる。 c: 正弦定理や余弦定理の有用性を認識し、平面図形や空間図形の計量に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート
3学期	第5章　データの分析	1　データの整理 2　データの代表値 3　データの散らばりと四分位範囲 4　分散と標準偏差 研究 変量の変換 5　２つの変量の間の関係 研究 最小２乗法 6　仮説検定の考え方 発展　仮説検定と反復施行の確率	A: 散布図を描く、相関係数を求めるなどの技能を身に着けており、それらの意味を理解している。 b: 散布図や相関係数などを用いてデータの傾向を捉え、それらを的確に表現することができる。 c: 散布図や相関係数などを用いてデータの相関を把握し、それらを事象の考察に活用しようとしている。	定期考査 確認テスト	定期考査 提出ノート	観察 振り返りシート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度